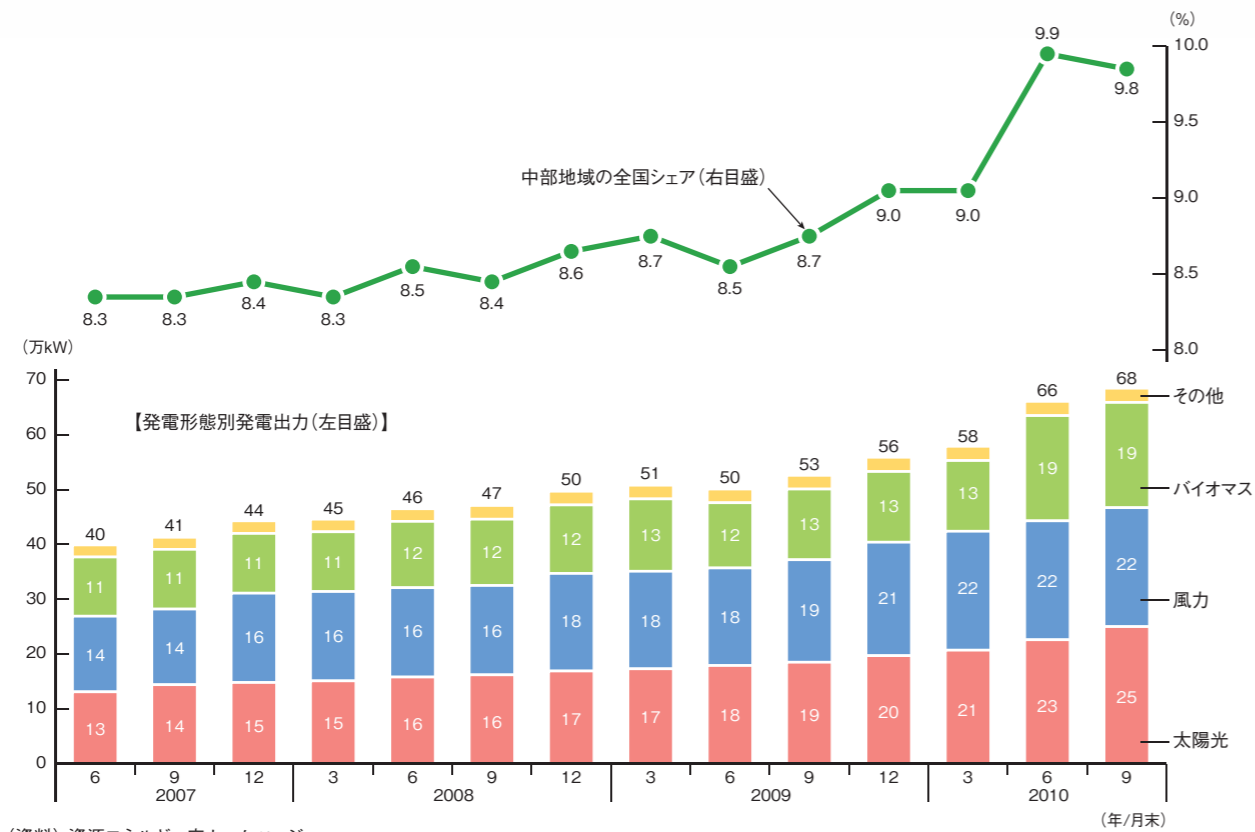


# データでみる中部のすがた

## 中部地域で導入が進む新エネルギー発電

図表1 中部地域における新エネルギー発電の導入状況の推移 (RPS法認定設備の総発電出力)



(資料) 資源エネルギー庁ホームページ  
(注) バイオマスは、発電設備の出力に使用燃料のバイオマス熱量比率を乗じた出力。なお、中部地域は富山、石川、岐阜、愛知、三重の5県。

図表2 三重・愛知の「次世代エネルギーパーク」の内容

名称	三重県次世代エネルギーパーク	あいち臨空新エネルギーパーク
概要	三重県内各地の新エネルギー施設を次世代エネルギーパークとして位置づけ、連携・PRで次世代エネルギーの理解と普及を促進	中部臨空都市(愛知県常滑市)周辺の様々な新エネルギー関連施設で構成され、愛知万博の理念・成果を継承した多様な新エネルギー研究・体験型パーク
特長	市町や事業者など多様な主体の参画・協働を図り、環境教育や周辺観光資源なども連携を推進する。また、バスツアーやスタンプラリーなど、楽しみながら新エネルギーを「見て・触れる」機会を設け、さらにパンフレットを作成し各施設をPRすることで、次世代エネルギーについての県民の理解と普及促進を図る。	中核施設である「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア」では、企業による最先端の技術を活かした新エネルギーに関する実証研究が行われ、将来の産業振興に向けて取り組みが進められている。また、他の施設と連携して、県民の新エネルギーに対する理解向上を図るための取り組みを行っている。
主な発電関連施設	<b>北勢地域</b> シャープ(株)亀山工場[太陽光発電施設] 5,210kW 三重県環境学習情報センター[太陽光発電施設] 28kW 鈴鹿市清掃センター[廃棄物発電] 3,000kW <b>中勢地域</b> 津市久居榊原風力発電施設[風力発電施設] 3,000kW (株)青山高原ウィンドファーム[風力発電施設] 15,000kW (株)シーテックウィンドパーク美里[風力発電施設] 16,000kW 津市西部クリーンセンター[廃棄物発電] 1,990kW <b>南勢志摩地域</b> 三重県磯部浄水場[太陽光発電施設] 150kW <b>伊賀地域</b> 三重県伊賀庁舎[太陽光発電施設] 12kW 三重中央開発(株)[廃棄物発電施設] 800kW <b>東紀州地域</b> 三重県立熊野古道センター[太陽光発電施設] 10kW	<b>あいち臨空新エネルギー実証研究エリア</b> 太陽光発電システム 360kW バイオマス利用スターリングエンジン発電機 32kW 家庭用燃料電池 1kW 小型風力発電装置(2基) 2kW NAS電池(1,800kWhの蓄電が可能) <b>JHFCセントレア水素ステーション</b> 水素ステーション(水素供給能力は国内最大級) <b>新舞子マリンパーク風力発電所</b> 大型風力発電機(2基) 1,700kW <b>中部国際空港「セントレア」</b> 太陽光発電システム 約240kW 天然ガスコージェネレーションシステム 4,950kW 燃料電池バス(2台) <b>メガソーラーたけとよ</b> 事業用メガソーラー 7,500kW

(資料) 資源エネルギー庁「次世代エネルギーパーク2010」、三重県「三重県次世代エネルギーパークパンフレット」等を基に三重銀総研作成

### 1. 中部地域における新エネルギー発電の導入状況の推移

- 2002年6月に「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」(RPS法)が公布され、電気事業者に一定量以上、新エネルギー等を利用して得られる電気の利用が義務付けられたことを契機に、中部地域でも新エネルギー発電の導入が広がってきています。
- ここで、資源エネルギー庁の資料により、中部地域における新エネルギーの導入状況として、RPS法認定設備の総発電出力の推移を確認してみると(図表1)、足元にかけてはほぼ一貫して増加傾向を辿っており、2010年6月末には60万kWを超え、直近の2010年9月末時点では68万kWとなっています。この間、全国シェアについても概ね右肩上がり形で推移しており、2010年9月末時点では9.8%と、10%が目前となっています。その結果、中部地域における新エネルギーによる総発電出力は、全国トップクラスとなっています。
- こうした発電出力について、発電形態別にみると、①太陽光発電は、主に住宅用の導入が急速に増加しているほか、②風力発電は、太平洋沿岸を中心として、大型の発電設備の設置が相次いでいます。さらに、③バイオマス発電については、廃棄物処理の過程で発生するエネルギーを有効に活用するタイプの発電設備の設置が進められています。

### 2. 地域の持続可能な経済発展モデルの構築に向けて

- 今後は展望すると、わが国では、新エネルギー設備や体験施設などを整備し、次世代エネルギーについて実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じて、地球環境と調和した将来の次世代エネルギーのあり方について国民の理解を進めようとする「次世代エネルギーパーク」の取り組みがはじまっています。こうしたなか、三重県や愛知県でも「次世代エネルギーパーク計画」を策定し、資源エネルギー庁の認定を受けています(図表2)。
- このうち、三重県では、県内各地の太陽光発電施設や風力発電施設などの新エネルギー施設を次世代エネルギーパークとして位置づけ、教育や観光との連携も図りながら、次世代エネルギーの理解と普及を促進しようとしています。一方、愛知県では、愛知万博の理念・成果を継承する形で、企業による最先端の技術を活かした新エネルギーに関する実証研究が行われるなど、将来の産業振興に向けての取り組みが推進されています。
- そうした取り組みなどを通じて、住民の新エネルギー発電に対する需要が高まるとともに、当地域におけるものづくりの技術などを活かした新エネルギーに関する技術開発が進むことにより、地域の持続可能な経済発展モデルが構築されていくことが期待されます。

馬場 基記